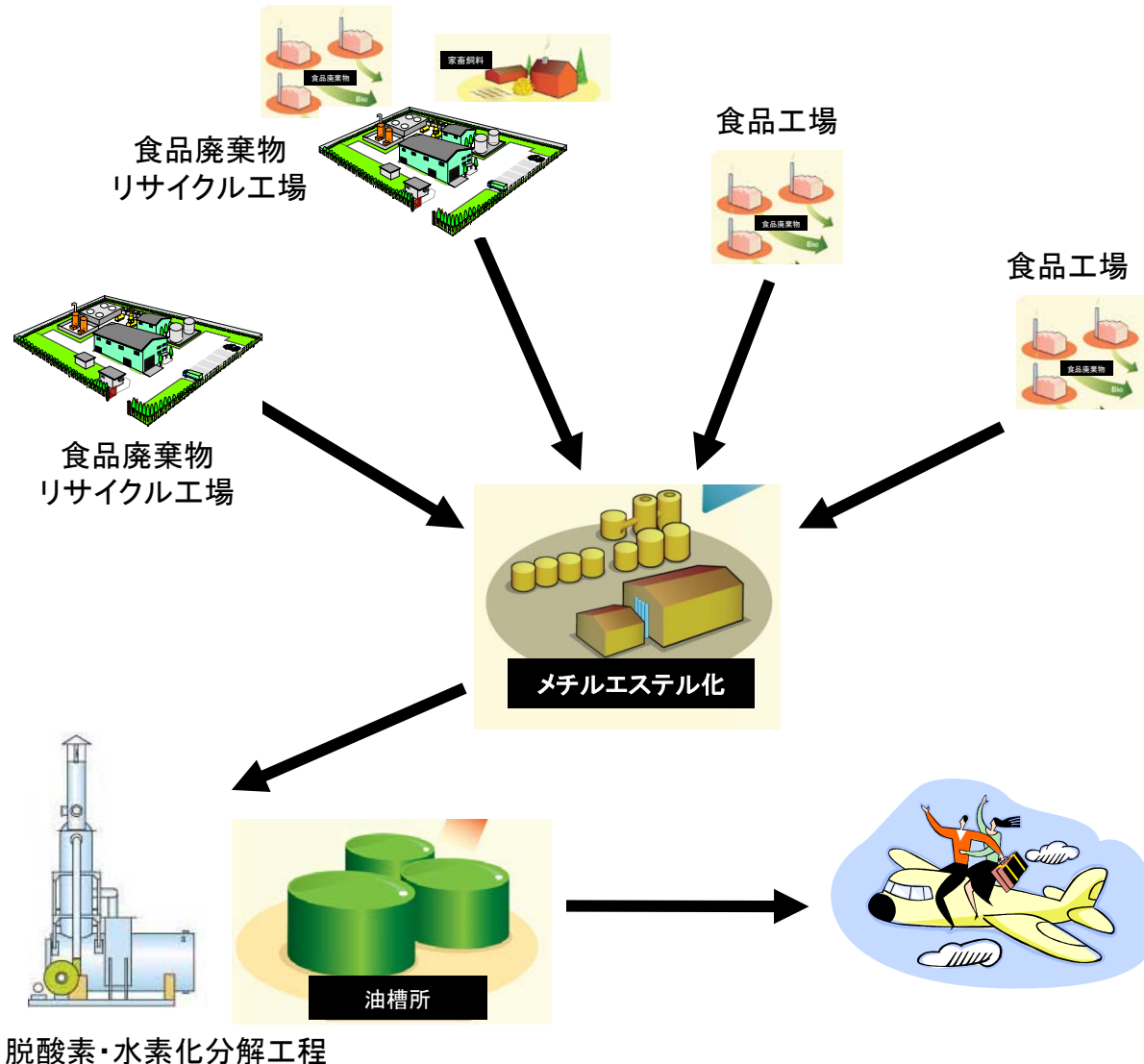


廃食用油からの航空機燃料

平成27年7月8日

サプライチェーンのイメージ



◆ 地域的に分散した食品廃棄物処理工場等

原料の例:

(油脂を含む食品廃棄物)

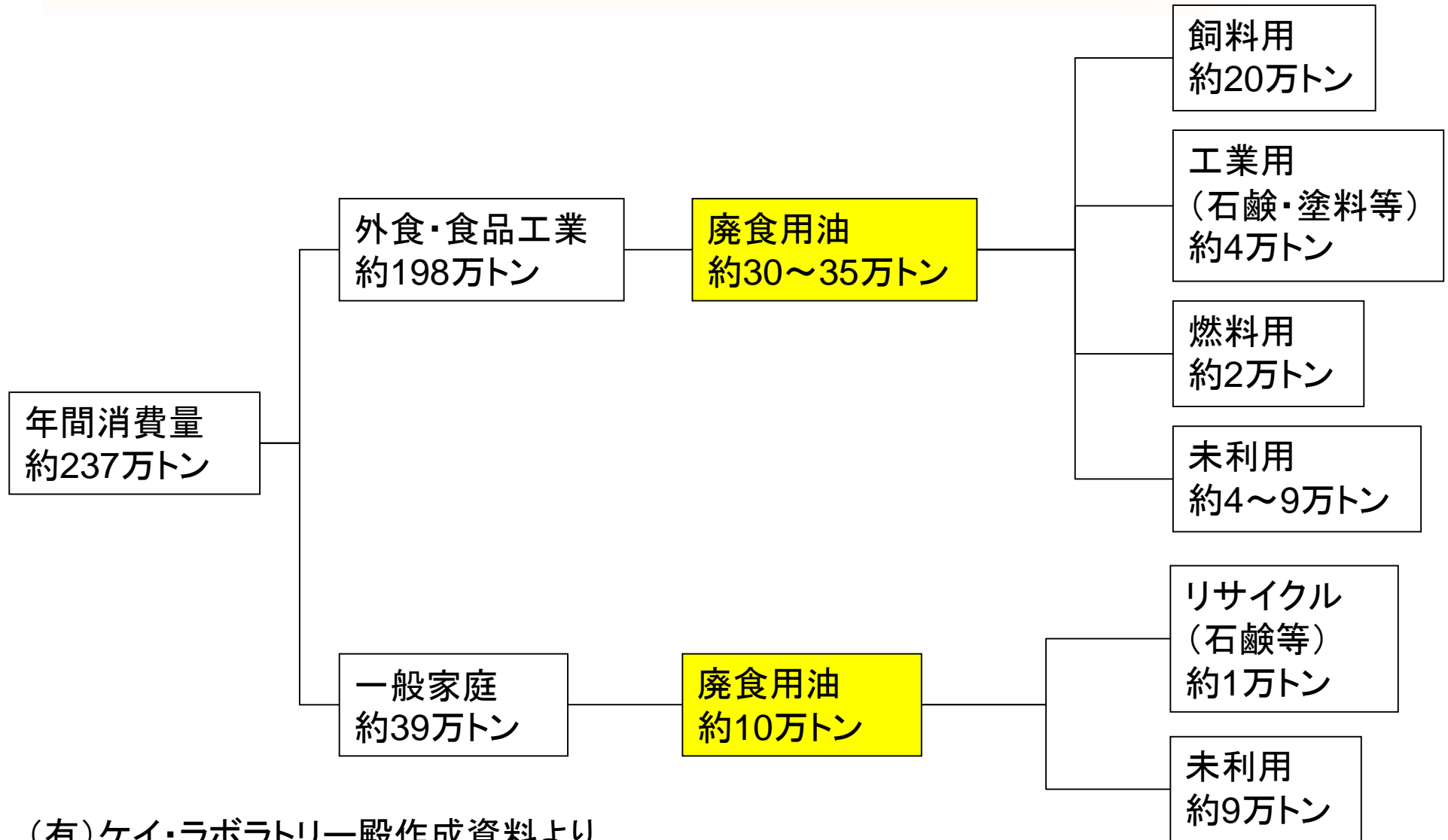
- ・食堂の廃棄物
- ・コンビニ弁当廃棄物菜
- ・スーパー食品廃棄物
- ・食肉加工場の廃棄物
- ・水産加工場の廃棄物

◆ 集約型エステル化プラントによる燃料予備精製

◆ 既存の石油精製設備での脱酸素・水素化分解・製品分離

脱酸素・水素化分解工程

日本国内の廃食用油脂の推定フロー



(有)ケイ・ラボラトリー殿作成資料より

テンプラーM21



処理棟内部状況

札幌市から事業系生ごみの処理を受託し、油温減圧式乾燥設備で再生処理すると共に再生品を家畜飼料の配合材として販売

処理能力: 60 ton/day→40kg/tonの油脂発生

(株)アルフォ城南島飼料化センター殿ホームページで同技術による施設概要が分かります。

ディスカッション

1. 主流となる技術は、合成ガス+FT、発酵法等。
2. 上記主流技術は開発余地があるため中長期的なロードマップとし、廃食用油脂のような実用化に近い技術は短期的なロードマップとするような2本立ての取り組みとなるのではないか。
3. 廃食用油脂資源の地域性に合わせた中小規模分散型設備となるから、その条件の下どこまでコストダウンできるかが課題。